



### ☐ 校長先生による今月のおすすめ本 ☐

#### 『罪と罰』 ドストエフスキー [著]

5、6ほど年前でしょうか。同じ作者の『カラマーゾフの兄弟』がテレビドラマ化され、ドストエフスキーが平成の世に再び注目を集め、作品が一気に書店に並びました。私はその時、ドラマにするのだったら『罪と罰』の方にしたい欲しかったなと思いました。なぜならば、同じドストエフスキーの代表作でも、『罪と罰』の方が恋愛小説としての側面を持っているため、そこに胸を打たれる読者が多いと思うからです。



少し長くなりますが、今回は簡単にあらすじを紹介しましょう。長編小説なので、全体のストーリーをあらかじめ知っておいた方が、読みやすいと思うからです。

貧しさにあえぐ主人公、大学生（但し、学費滞納で除籍）のラスコーリニコフが、金貸しの老婆を殺して金を奪います。強欲で人を苦しめるような人物は殺されても仕方がない、自分はその金を世の中に役立つのだという理屈でした。実際に、彼は酒場で出会った見ず知らずの人物に、なけなしのお金を渡してしまうような人物なのです。しかし、その際、無関係な老婆の妹まで殺すことになってしまい、ラスコーリニコフは、最初は思いもなかった罪の意識に苦しみます。そんなラスコーリニコフを犯人だと確信して追い詰めていく判事のポルフィーリー、そして、貧しさ故に娼婦となって家族を助けるソーニャ、そういった人々が関わり、物語は進んでいきます。ついに、ソーニャに自分の行為を打ち明けたラスコーリニコフは、ソーニャから広場に行って罪を告白し、ひざまずいて大地にキスをするように言われ、それを行った後、ポルフィーリーの元に出向き、老婆とその妹を殺したことを自白するのです。心神喪失であったと判断されたラスコーリニコフはシベリアに流刑となり、ソーニャは後を追って刑務所のある地に移り住み、彼が釈放される日を待ち続けるという描写で物語は終わりを迎えます。

さて、本当に大まかなあらすじですが、最初に述べたように恋愛小説として、また、当時のロシア社会を描いた社会小説としてなど、様々な顔を見せるこの作品、皆さんも楽しめることを確信します。（校長 矢持 昌也）



### 3/25 登校日は、図書館開館しています！

### 何冊でも、貸出OKです！



新型コロナの流行で、出かけられないこの時こそ、お家で読書はいかがですか？

お待ちかね！

### ☆ NEW BOOK ☆



『かくや様は知らせたい』



『BEASTARS』



『5分後シリーズ』 いろいろ！



### ★今回は特別に、雑誌の最新号も貸出します！

### \* 2019年度 貸出冊数 \*

### 全体 2972冊

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	合計
1年	128	978	43	154	194	203	46	1746
2年	70	105	203	66	73	208	191	916
3年	63	58	76	38	22	25	28	310